

越後桂派の資料の原文より

1. 桂南山書簡、桂一明宛。桂家の系図の問いに答えて

一筆致啓上候 寒氣弥増候得共 以先此度之大変満足目出度奉存候 当方皆ニ無事御安意日候 日外(イツゾヤ)実家系図御尋シ所 是迄延引 此節ニ至り相しらべ見候所 抑桂家之先祖ヲ尋ルニ 足利之末 慶長之頃越ノ後岩船郡関桂山之禁(フモト)ニ落去ス 其後臥牛山下村上城下成ニ依而 村上へ出住ス 鐫物ヲ好めるに依而京へ出 後藤寛乗之門ニ入ル 銘ヲ桂雲軒寛敬ト号ス 二代栄ニ東都へ出 初メ菊岡光行ヲ師トス 光行ぼつして二代光朝若かりしに依而 打越圓藏弘寿ニ隨身ス 弘寿ぼつして 市ヶ谷埋忠加ニ右衛門就門ヲ師トシテ 四分一摺はがしヲ学ぶ共 後又石黒ニ入テ鷺ヲ鐫意手ルニ依而 桂鷺州ト号ス 其頃東都之国学者かた野訓之二 姓ヲ問に 足利・新田・坂田・桂ハ同姓成ト言ニ依而 姓ヲ桂ト改 国へ下りて政隨を学ぶ也

村上鐫物師元祖

足利姓桂ト改

定ニ 初代 京ノ後藤寛乗之門ニ入テ桂雲軒寛敬ト号ス

光長 二代 栄ニノ銘鷺州軒、春鋤亭、松鷺軒、富貴洞ト号ス 後に至りて桂鷺州ト銘ス

初め政壽、摺はがし 銘ニ就寿とも切か

義明 次男 東都神田永富町竹谷次郎兵衛門人 研師也 名ハ千蔵

赤文 三男 酒井候の御抱 桂野正蔵 遊洛斎正珉ト号

保光 四男 忠吾 北桂子南山ト銘ス 元下地師なれども好而寅ヲ鐫ル

一明 元祖定ニノ三代 国之助 二代栄ニ之養子也

弟子ノ次第

光長

村上家中 永田 作内

同 鈴木 二十二

三男 正蔵 庄内家中 桂野赤文 遊洛齋赤文

四男 忠吾 南山 桂 保光

長岡家中 清家 寛七 桂正長ト銘ス

養子 国之助 一明

三男赤文

初鯉水軒赤文 後東都ニ至りて遊洛齋と改

右弟子貴下御存故 是ヲ不印

四男南山

下地師也 好而寅ヲ鑄ル

弟子新発田家中 吉川熊蔵

南山子 剛吉 延太郎 東都神田永富町四丁目研師竹谷次郎兵衛

之門人也

三男兵治郎 下地師、彫物師兼帯

右を通相したため遣候間 先後宜敷様御斗くらへ可披成候

十一月十一日

南山

桂 一明殿

2. 瀬波の多岐神社の礎階の資料

礎階 文政甲辰年 吉日

施主 村上

桂 定次

同 光長

同 赤文

岩船郡瀬波滝不動前ニ記シ彫有
但シ金工彫師也

二代桂 赤文 明治四十五年二月廿九日記 七十四才